

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく4

国立市立国立第七小学校

平成28年9月5日 NO.39 (339)

モンタ博士「今日は、『フッタ博士』に登場してもらうことにしましょう。」

オー君 「それは楽しみですね。それで、どんなお話なのかな。」

モンタ博士「それはね、今年のハケ岳野外体験教室でのお話だよ。とっても
おもしろいお話だったので、国立七小のみんなにお話ししてもらおう。」

花ちゃん 「わくわくドキドキしますね。どんなお話なんですか。」

モンタ博士「それでは、今から『フッタ博士』に登場してもらおう。」

フッタ博士「はい！みなさん。こんにちは。2学期も
よろしくね。ところで、野外体験教室での
お話とは、『ウイナーソーセージ』のことかな。」

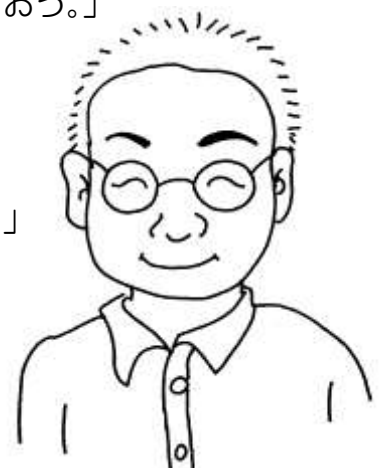
モンタ博士「そのとおりです。よろしくお願ひします。」

フッタ博士「それでは、まず、絵のように右手と
左手の人さし指を目の前に出してごらん。」

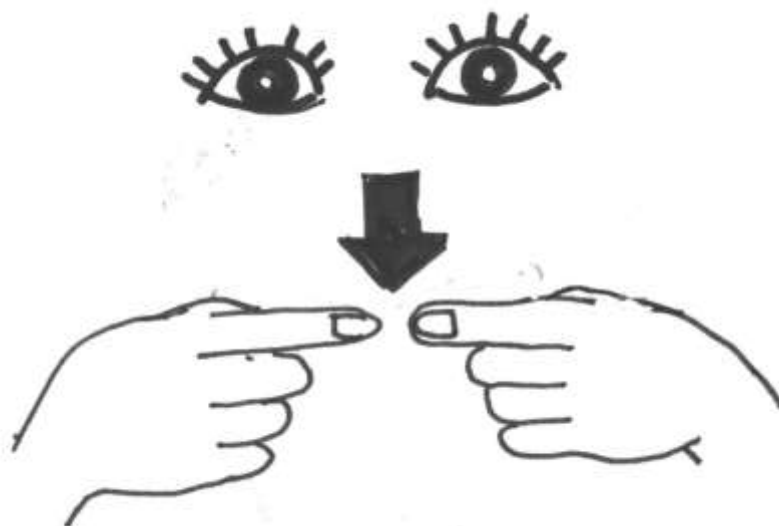
オー君 「人さし指ですね。」

フッタ博士「まあ、どの指でもいいんだけどね。つめのほうではなく、指の腹のほうだよ。
そして次に、目から10cmくらいはなして見るんだよ。」

花ちゃん 「ハイ！わかりました。指を見るんですね。」



フッタ博士



フッタ博士「そうだ。指を見るんだ。すると、指しかみえないだろう。」

オー君 「そうですね。指しか見えません。・・・これでおしまいですか。」

花ちゃん 「指を見るだけではつまりません。わくわくドキドキもありませんが・・・。」

フッタ博士「ここからが大事なところなんだよ。今まで指だけをしっかりと見たでしょう。

それでは、ここで、指を見るのではなく、そのまま遠くの建物でも山でも

いいよ。ともかく、遠くを見るようにしてごらん。」

花ちゃん 「つまり・・・焦点を指ではないほかの所にするということですか。」

フッタ博士「そうだ。そのとおり！やっごらん。」



オー君 「うわー！ウイナーソーセージが見える！見える！」

花ちゃん 「うわー！これはおもしろいですね。」

オー君 「うまそうなウイナーソーセージだ。」

花ちゃん 「人さし指を近づけたりはなしたりすると、ウイナーソーセージが大きくなったり、小さくなったりもしますね。」

オー君 「これはおもしろいですね。」

花ちゃん 「おうちの人にも教えてあげようっと。」

フッタ博士「このお話は、野外体験教室の時、ちょっと時間があって、みんながひまそうにしていたからお話したんだよ。ほかにも、ペットボトルやポテトチップス、オオバコの葉で遊んだりしたね。それは、また今度ね。さあ！2学期もみんなでたくさん『わくわくドキドキ』をしていこう。」